

日時：2019年3月23日（土）15：00～18:00

場所：東洋大学 白山キャンパス 8号館 中2階 第2会議室

出席：渡邊芳之理事長、松田英子副理事長、小塩真司、尾見康博、北村英哉、加藤 司、
森津太子、中村 真

欠席：向田久美子（審議事項を理事長に委任）

日本パーソナリティ心理学会第131回常任理事会

報告事項

I 理事長挨拶

本学会初代理事長・名誉会員の詫摩武俊先生ご逝去を悼んで哀悼の意を表するとともに、機関誌への追悼文掲載などについて報告があった。

II 各種委員会報告

1 機関誌編集委員会（加藤委員長）

(1)編集状況について

第27巻第3号について、原著6篇、ショートレポート7篇の掲載を予定している旨の報告があった。また、第28巻1号について、原著4篇、ショートレポート3篇が採択されたとの報告があった。

(2)審査状況について

審査状況について、以下の表に示した通り、報告があった。

月	採択	審査中	修正中	不採択	取下	投稿数
10	2	13	12	1	1	9
11	1	13	15	3	0	6
12	2	15	10	3	1	8
1	3	15	12	4	0	7
2	2	17	13	3	1	8
3	1	—	—	3	1	—

加藤委員長より、投稿数に大きな変動はないが、採択論文の本数が減っている状況であり、将来的に掲載論文の質の低下などが懸念されること、最終的に採択には至らない投稿が増える傾向にある旨の説明があった。また、常任理事会あるいは理事会に将来的な対策（例えば、1巻3号体制から2号体制にするなどの対策）を示してもらい、それをふまえて機関誌編集委員会として対応していきたいとの要望が示された。これについて意見交換が行われ、「現状で2号体制にした場合、予算面では減額になる」、「3号体制を2号体制にするには、

相応の根拠が必要である」、「紙媒体を廃止して電子化に一本化するなどの対応もある」、「電子化に統一されれば、巻号という概念に縛られなくなる」、「早期公開されれば掲載されたことになるが、院生会員は、冊子体として印刷版が出ることにこだわる傾向もある」などの意見があった。

渡邊理事長より、かつて機関誌における紙媒体廃止アンケートを実施した頃とは事情もだいぶ変わってきているので、印刷版廃止などの抜本的改革も含めて今後再検討することにしたとの意向が示された。

(3) 投稿チェックリストの一部修正について

加藤委員長より、ページ数に関わる部分について、以下の通り、下線部分を加筆したい旨の提案があり、審議の結果、承認された。

3. 論文種別と論文の文字数

3) 原著は、英文アブストラクト、和文要約、本文（引用文献を含）、図表、すべてを含めて刷上り 10 頁が上限である。二次資料を用いたメタ分析や理論論文を含めた展望論文などの総説、一次資料を用いた特殊な原著論文（多くの頁を必要とする論文）を投稿する場合には、刷上り 16 頁までとする（投稿システムでは「原著（その他）」から投稿する）。特殊な原著論文（多くの頁を必要とする論文）を投稿する場合には、事前に編集委員会で協議のうえ刷上り 16 頁まで許可する（許可されない場合もある）ので、投稿前に連絡する。

これに関連して、「幅広く投稿を受け付けることができるというメリットがある（加藤委員長）」、「特集号発行も（例えば、発達特集、など）視野に入れて検討してはどうか、それでうまく論文が集まればよいのでは（北村常任理事）」、「特集に適したテーマや需要がある特集であれば、やる意義もある」、「メタ分析の投稿ができるジャーナルは少ないのでページ数増も含めて有難い」、「和文紙の役割は、今後どうなるのか推移をみていきたい（渡邊理事長）」、などの意見交換を行った。

また、増ページに伴う課金はあるのか（森常任理事）との質問があり、加藤委員長より、現状は 12 ページに収まれば課金しておらず、それを超えると課金している。これに準じて、16 ページの場合は、18 ページまでに収まれば課金しないことになるとの意向が示された。総じて、今回の改訂にともなう予算上の負担増はそれほどないとの見通しが示された（加藤委員長）。

2 経常的研究交流委員会（小塩委員長）

(1) 第 3 回パーソナリティ心理学コロキウムについて

「心理学は性差にいかに向き合うか」というテーマで以下の通り開催する旨の計画が示された。

日時：2019 年 3 月 30 日（土） 14:00-17:00

場所：立正大学品川キャンパス 8 号館 8 B 2 1 教室

【話題提供】 平石 界（慶応義塾大学）、森永康子（広島大学）

【指定討論】 小杉考司(専修大学), 小塩真司(早稲田大学)

(2)2019 年度予算について

事業費として、215,000 円の予算案が示された。内訳は、以下の通り。

- ・大会企画：旅費交通費 25,000, 謝金 20,000
- ・MMP：旅費交通費 10,000, 謝金 20,000
- ・大会外企画：旅費交通費 50,000 (25,000×2), 謝金 40,000 (20,000×2)
- ・プラットフォーム企画：補助 50,000

運営費として、85,000 円の予算案が示された。内訳は以下の通り。

- ・大会外企画：企画委員交通費 50,000
- ・打ち合わせ弁当代 10,000
- ・印刷代 5,000
- ・国際交流関連：英文校閲代金 20,000

審議の結果、以上の予算案が承認された。

(3)委員構成および更新の時期について

これまで大会時に更新していたものを年度ごとに更新することにした。委員構成について以下の通り提案があり、承認された。

【3 年目委員 (2020 年 3 月まで)】

平野真理 (東京家政大学), 中井大介 (愛知教育大学)

【2 年目委員 (2021 年 3 月まで)】

藤本 学 (立命館大学), 大久保智生 (香川大学), 桂 瑠依 (川村学園女子大学), 永井 智 (立正大学)

【1 年目委員 (2022 年 3 月まで)】

前川真奈美 (一橋大学学生相談室), 古村健太郎 (弘前大学), 水野君平 (北海道大学)

【国際交流部会：全員 2022 年 3 月まで】

田島 祥 (東海大学、再任), 高野慶輔 (ミュンヘン大学、再任), 川本哲也 (東京大学、新任), 渡辺忠温 (東京理科大学、新任)

3 広報委員会 (松田委員長)

(1)活動報告

WEB サイトの更新、メールニュースの配信などの活動内容が報告された。なお、WEB サイトは、月 30 分以内の更新作業という契約形態である。大がかりな更新については追加の課金が発生する旨の確認があった。

(2)「心理尺度の広場」「公開企画」について

現状と課題が示され、今後、見直しを含めて検討する旨の報告があった。

(3)YPP2019 について

準備進捗状況の報告があり、企画担当者の一部変更があり、現在、以下のメンバーで準

備を進めている旨の報告があった。

下司忠大 (早稲田大学・現 D2)/ 企画代表、山岡明奈 (筑波大学・現 D2)*、田口恵也 (名古屋大学 M1)、小笠原香苗 (名古屋大学 M1) *

* 現在は非会員であり、4月から新規入会の予定である。

(4)学会賞選考委員の開示方法について

学会賞選考委員を任期終了後に開示する方法について審議を行い、機関誌 (28 巻 1 号) に委員氏名を掲載することを申し合わせた。

4 学会賞選考委員会 (北村委員長)

次回学会賞の一次選考 (理事による推薦依頼) が始まったことの報告があった。委員の任期 (更新の時期) について審議を行い、原則として3年任期とし、年度更新とする方針である旨を確認し合った。委員および委員長が投稿している場合もあり得ることを確認し合った。委員の中に投稿者が含まれていることは、特に問題としないことを申し合わせた。委員の選定に苦慮していることが示され、委員の推薦をお願いしたいとの依頼があった。審査方式は、従来を踏襲すること、論文の種類が増えることへの対応は、2019 年度の様子を見て必要に応じて検討することを申し合わせた。

III 日本心理学諸学会連合 (渡邊理事長)

別資料に基づき、社員総会への参加報告があった。本学会に関連する人事として、2019 年度からの心理学検定局長として藤田圭一先生が、副局長として堀毛一也先生が就任するとの報告があった。また、公認心理師の職能団体の問題が話し合わせ、理事会としては、現在 2 つある団体を 1 つにまとめる方向で検討したいとの意向が示された旨の報告があった。これについて、フロアで議論があり、2つの団体が並立していることの意義が示されることはなかったこと、その後、アンケートへの回答依頼があり、渡邊理事長の判断で何らかの形で一本化に向けて進めてほしい旨を回答したとの報告があった。

この方針について審議が行われ、本学会としては、一本化賛成という方向性で対応することを申し合わせた。

なお、本学会より心理学検定局運営委員として、太幡直也氏 (任期: 2019 年 1 月~2021 年 12 月) を選出した旨の報告があり、審議の結果、追認された。

IV 第 28 回大会準備状況について

今回は特に報告事項なし。次回常任理事会には荒川準備委員長に出席していただき、説明・打ち合わせの場を設けたい旨を確認し合った。原則として、企画運営は主催校に任せたい (渡邊理事長)。大会発表賞については、1 号通信で前回大会を踏襲する形で告知が行われているので、それに矛盾しないようにしつつ審査者の負担減を視野に入れて進めること、森常任理事から荒川委員長に連絡を取り、細目をつめることを申し合わせた。

審議事項

I 第 27 回大会の収支報告について

収支報告書に記載されている残金の取り扱いについて審議が行われ、学会への返金として対応を依頼するとともに、これに応じて収支表の修正を依頼することを申し合わせた。

II 新年度からの各種委員会の再編について

前回常任理事会からの継続審議事項を検討した。

再編案（以下の4委員会体制とする）

- ・機関誌編集委員会
- ・経常的研究交流委員会（経常的研究交流委員会と国際交流委員会を合併）
- ・広報委員会（広報委員会と学会活性化委員会を合併）
- ・学会賞選考委員会

その他

- ・総務担当常任理事を新設（常任理事会・理事会の準備運営、議事録作成などを担当）
- ・委員の任期を3年とし、原則として年度更新とする。

以上について審議を行い、承認された。なお、学会活性化委員会の委員については、2019年3月末で退任という方針を申し合わせた。また、役員の任期についても年度更新に移行するという方針を確認し合い、できれば28回大会総会で承認してもらおう方向で検討を進めることを申し合わせた。

III 財務関連事項（尾見財務担当常任理事）

2019年度予算案が示され、審議の結果、承認された。尾見財務担当常任理事より、赤字となっている原因として、会員数減にともなう会費収入の減少、今年度決算の前に次年度予算を進めなければならぬという事情があり、見通しが読めないこと、WEBサイトの外注、事務委託などの固定費が増額した割に、会費収入がやや足りないとの説明があった。そのうえで、繰越金を取り崩すことで当面は運用していくことができるが、中期的には財務改善を検討していく必要があるとの見解が示された。例えば、機関誌の紙媒体廃止などで印刷代を減らすなどの経費節減策が考えられるが、どの程度節減できるのか、今後、理事長と事務局長で相談の上、検討を始めることを申し合わせた。

IV 国際文献社との2019年度事務委託契約について（確認）

契約書案について審議を行い、原案通り、承認された。英文校閲料の請求の仕方について、まとめて請求することで支出を抑えることが可能かなどを継続検討することを申し合わせた。また、浮谷前理事長の研究室に保管をお願いしている学会資料（学会誌のバックナンバー、ニュースレター、会議の議事録など）、東京国際大に保管してある故詫摩武俊先生の学会資料の取り扱いについて、国際文献社に預かってもらう（料金が発生）のが現実的か、レンタルスペースを利用するかなど意見交換を行った。まずは、国際文献に問い合わせ、機関誌のバックナンバーが全て揃っているかを確認することを申し合わせた。また、これらの保管資料を理事長がいったん預かり、処分・保管する方針を申し合わせた。

V 会員の入退会に関する件

事務局より別紙の通り、新入会希望者12名（うち11名はML審議にて承認済み）、退会

希望者 8 名の一覧が示され、審議の結果、承認された。併せて、宛先不明者について報告があった。

以上の承認を受けて、2019 年 3 月 15 日現在、会員総数は 919 名である。内訳は、一般会員 686 名、院生会員 220 名、学生会員 2 名、名誉会員 8 名、賛助会員 3 名。
※今回審議対象の新規入会希望者 1 名は含まれない。

VI 第 130 回常任理事会議事録の件
議事録案が示され、承認された。

VII その他
次回常任理事会を 2019 年 6 月 15 日に行うことを申し合わせた。